



劉家村に住む人は皆、劉という姓ですが、美京の姓は馬です。これは美京の家は他所から移ってきたということに他なりません。美京の元の家の戸籍はこの地から2キロほど離れた山のふもとの‘清水関’と呼ばれている村にあります。この村は、明清から中華民国にいたる間は可なり知られたところで、かつては県の役所が置かれていたとのことでした。

清水関村の名は川底が見えるほどの清冽な流れがここから黄河に流れ込んでいたことによります。当時、村は何百里四方にわたる有名な交易地であり、相当規模の大きな港町でした。一番多いときは100戸を越す家がありました。今なお微かながら道路や旅館、油の製造販売所、製粉工場、染物屋、更に劇の舞台や寺廟もあり、さぞ賑やかなところだったろうと想像できます。その頃は、黄河対岸の晋の商人、北方から下ってきた内モンゴルの毛皮商人、三辺（安辺、靖辺、定辺を合わせて三辺と呼ぶ。いずれも、榆林の西方にある地域）からやって来た塩商人や薬売り、加えてアワやキビ、ナツメ、緑豆などを売買する当地の農民などが集まり、交易し、自然に交易市場を形成するようになって明末より新中国が建国するまで続きました。その後、農村の自由貿易の発展を制限するような多くの政策が公布され、港の交易市場は次第に縮小され衰微の道を辿りました。

1958年の大躍進の折、政府は村の撤収を発令し、清水関の何十軒かの家は周囲の村に移りました。今、ここは人が去って誰も住まなくなった窑洞や崩れ落ちた住居に夏草が生い茂り、古めかしく零落したたたずまいがあります。

美京の家も1958年のときに山の上の劉家村に移り住むようになりましたが、苗字が違うので、村はずれで、清水関から一番近い辺りに窑洞を建設し生活を始めました。美京の家の先祖は商店を営み、清水関の、三方を川に面し、背を山に寄り添う天恵の地に正方形の屋敷を擁し、東向きには5部屋の大窑洞、その両サイドに7、8部屋の窑洞が建てられて豪邸と呼ぶに相応しいものでした。

ですから、美京が、アンケートに将来の理想のところに“大人になったら幹部になりたい”と書き込むのは不思議ではありません。父親も祖父も真剣な眼差しで美京が書き込むのを見ていましたが、書き終わると二人はホッとしたように笑いました。そうです、どこの商人でも幹部になるのがよいのです。収入は保証され、生活は安定します。50歳余りになる美京の父親も最近村長という地位に付いたばかりです。

農村の子どもや山里の子どもたちが、僻地を離れ、山から出るには勉強するしかありません！幸いなことに美京の家の経済状況は彼女が進学する支えにもなります。更に、父も祖父も勉学が大切なことを深く理解しており、美京もまた才気のある賢い子どもですから、彼女の前途は間違いのないことを確信できます。（田井訳）



第一次遇见美京，朝阳撒在娃娃天真无邪的脸庞上，显出山里娃娃的淳朴、可爱。（1999年9月）